

学校運営計画 (4月)				総合評価		
学校運営方針	文武両道を校是としながら、鍛錬によって人格を陶冶し、自律心と思いやりの心を持った工業人の育成を図る。					
昨年度の成果と課題	本年度重点目標	具体的目標				
「Team FUKKO」「燃える福工生、目指せ日本一」を合言葉に、全職員で教育活動に取り組み、様々な部署において具体的な数値として昨年を上回る成果を上げた。本年度はこれらの成果を一過性とすることなく、定着と成長を期し、全職員の力量向上に努め、新たな福工を創造していく。	校訓の精神に基づいた人づくり	勉学や部活動に積極的に取り組むなど、文武両道に励み、心身共に逞しい生徒を育成する。(質実剛健)	A			
		工業教育を通して、協働の精神や規範意識、倫理観を育み、我が国や地域社会に貢献する「志」を持った生徒を育成する。(自律)				
	各学科の特色を生かした教育活動を通して、イノベーションを起こしていく生徒を育成する。(創造)					
	学力向上と希望進路の実現	学科、学年、教科の連携を図り、学習習慣、特に家庭学習に重点を置きながら学力向上を図り、以て希望進路を実現する。				
国際社会を生き抜く人材の育成	日常の学習や「芸術鑑賞」等の諸行事を通して、日本の伝統文化や国際貢献等を学び、日本人としてのアイデンティティを持ちながら、異文化を理解する力や協働の精神を涵養する。	海外修学旅行や外部講師による講演会等により、海外に目を向け、国際社会で活躍できる人材を育成する。				
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度の主な課題		
教科指導	生徒の学力向上に資する授業ができるよう環境を整える。	学ぶ意欲やチャレンジ精神を高めるため、アクティブ・ラーニングを推進する。	A	A	生徒の学ぶ意欲向上のためのアクティブラーニングの推進を図ることができた。次年度は、さらに多くの先生方が取り組めるように研修部と連携を強化する。家庭での学習習慣定着については、次年度も継続して取り組むべき喫緊の課題である。実態を把握・分析し、生徒の学習意欲と学力向上を目指した教科指導の在り方を検討していきたい。	
		各分掌と調整し、授業時間の確保に努める。	A			
	実力テストの結果を分析し、改善策を検討・提案する。	B				
授業以外の場でも生徒が自立的に学習できるような習慣を身につけさせる。	各教科の学習目標を明確にし、家庭学習の実態を把握することで、学習習慣の定着を図る。 成績不振の生徒には、学習を補う機会を設け指導を徹底する。	各教科の学習目標を明確にし、家庭学習の実態を把握することで、学習習慣の定着を図る。	C	B		
		成績不振の生徒には、学習を補う機会を設け指導を徹底する。	A			
		登校指導や校内巡回指導などの徹底で基本的な生活習慣の確立をさせる。	A			120周年の節目の年に学校行事を中心に「福工力」を再確認することができた。一方、挨拶や登下校時の自転車の交通規則遵守・マナー向上など校外での規範意識の育成が課題である。地域から愛され、信頼される県下工業高校のトップ校として誇りと自信に繋がる生徒像を目指す取組を検討していきたい。
規範意識の醸成に努め、「問題行動ゼロ」を目指す。	C					
基礎基本徹底委員会や生徒委員会などと連携し120周年に相応しい福工生の姿を目指す。	B					
地域や関係機関(警察・校区自治会・ゾーン30など)との連携を密にし、規範意識の向上に努める。	A					
学校生活アンケートを活かして生徒一人一人が安心して学校生活が送れるようにする。	A	A				
いじめアンケートの活用や防止委員会の充実で「いじめゼロ」の学校を目指す。	A					
保健部のカウンセリングなどとの連携で不登校・中途退学生徒ゼロを目指す。	B					
進路指導	キャリア教育プログラムに基づき、生徒の進路意識を高め、将来、社会人・職業人として自己実現できる基礎能力を養い、学校生活を充実させる。	進路ガイダンス、インターンシップ、応募前職場見学、進路宿泊研修等の充実・発展を図り、学校生活を充実させる。	A	B	進路資料の活用を促し、進路指導における学科の意識向上を図る。現在の進学・就職内規の検討を図り、進学や企業の推薦要件に見合う生徒の人選を行うための進学・就職推薦基準の見直しを考慮する。県内や近隣県への進学から日本全国へと目を向けさせ、新規の国公立大学受験を目指す生徒を育成する。空調設備導入に伴う学習環境の向上から、校内での学習習慣を身につけさせる。キャリアデザインシートの有効な活用方法を検討する。	
		ホールルーム活動や進路講演会、進路学年集会などを通じて生徒一人一人の進路意識の高揚を図る。	B			
		キャリアデザインシートの活用を即し、生活習慣を確立させ日々向上心を持って高校生活が送れるように支援をする。	B			
	生徒の情報収集能力と活用能力を高め、一人一人の能力と適性が最大限に生かせるような進路の実現に向けて支援する。	就職希望者へのきめ細やかな進路相談と生徒の特性をいかした就職指導に努め、就職内定率100%と1次での採用内定率90%を目指す。	B			A
		生徒の進路希望を早期に把握し、企業訪問や職場見学を適切な時期に実施する。	A			
		進路に関する資料の充実と誰でもが利用しやすい環境をつくる。	A			
	進学説明会や個人面談を通して進学意識の向上を図り、志望校決定に必要な最新の情報を提供する。また、進学補習を充実させ学力養成を図る。	公務員希望者に対して継続的な課外補習や模擬テストを行い、一人一人の学習状況を把握し指導することで合格率向上を図る。	A			A
進路ガイダンスや説明会を通して、工業教育を基礎とした進路意識の向上を図ると共に個人面談を行い適切な進路指導を行う。		A				
進学補習を充実させ、入試に耐えうるような学力を養成すると共に進学後の学習や研究に必要な基礎力の確立を図る。	進学補習を充実させ、入試に耐えうるような学力を養成すると共に進学後の学習や研究に必要な基礎力の確立を図る。	B	B			
	進路速報やホームページを活用して本校の情報を発信し、中学校関係者や地域社会に本校の理解を図る。	A		A		

特別活動・部活動	学校行事を活性化させ、生徒が積極的に参加し成功・感動体験を共有し、所属感や愛校心を持たせる	生徒会長、生徒会執行部、応援リーダー、獅子の会を中心に学校行事を生徒中心で運営する。	B	A	A	生徒会長や生徒会執行部を中心とした学校行事を活かあるものとし、全生徒の活躍の場を増やす。本年度できなかった、部活動の応援体制を強化し、内部から学校を盛り上げる体制を整えていきたい。
		委員会活動を計画的に支援し、活発で自主的な活動を促す。	A			
		リーダーを計画的に育成し、活躍の場を増やす。	A			
		質の高い挨拶を推奨し、活気のある学校生活と、高いコミュニケーション能力の獲得を目指す。	B			
		新たな人間関係を形成し、多くを学び合える場として、部活動・同好会への参加を増やし、活動の活性化を図る。	A			
		部活動加入率85%を目指し、ミスマッチ入部を無くし退部者を防ぐ手立てを講じる。	A	B		
		各部が戦績を称え認めあえるよう、また校外に向けたアピールの為に広報活動を強化していく。	B			
健康・安全指導	健康安全教育の充実にも努め、校内環境の整備と望ましい生活環境の啓蒙を図る。	健康への意識を向上させるため健康診断等の結果を随時知らせ、個別の生徒への保健指導を充実させる。	A	A	A	生徒の健康への意識をさらに向上させるため月一回の保健便りの内容を充実させる。また、保健委員会活動をさらに活発にし、今年度内容変更した3年生による校内清掃点検、2年生によるボランティア清掃、1年生による保健便りを継続し、さらに充実させて行く。各学年の委員会活動を全学年の活動としてまとめ、保健委員としての自覚を促す。
		危機管理マニュアルを周知し、緊急対応、生徒の安全確保に努める。	A			
		保健室利用状況を常時確認できるようにデータ入力を行い生徒の指導へ活用できる環境を整える	B			
		校内外の清掃を徹底し、日本一美しい学校を目指し、また、地域に愛される学校を目指す。	A			
		委員会活動の活性化を図り、生徒の自己肯定感の向上を目指す指導を行う。	A			
家庭と地域との連携・広報活動	地域や保護者との連携を密にし、開かれた学校づくりのため、一層効果的な広報活動を企画し、展開する。	学校ホームページの内容及びデザインを見直し、本校の魅力を積極的に発信する。	B	A	A	学校ホームページを一新し、学校案内パンフレットの電子ブック化など積極的に発信していきたい。PTA活動では、保護者の積極的な参加があり、これを継続し、より効果的に教育活動を行っていきたい。
		体験入学や学校案内パンフレットの内容を見直し、本校の教育活動を紹介する。	A			
		PTA活動を通じて保護者と学校との連携をを深め、より効果的な教育活動を行えるようにする	A			
研究・研修	生徒にとって「わかりやすく興味を持てる授業」を実現し、社会や地域のニーズに応えられる教育の在り方を追求する。	授業の工夫・改善を図るため、研究授業や公開授業の質を向上させる。	B	B	B	「わかりやすく、興味を持てる授業」のために、アクティブ・ラーニングやICT機器の活用に関する研修を積極的に行う。また、授業アンケートを改善し、生徒のニーズを理解・反映して、授業の改善を促す。
		基本研修や校外研修の内容が全職員で共有できる研修を計画する。	B			
		研修の内容を整理し、研修の効率化・スリム化を推し進め、研修の認知度を上げる。	B			
		学務部と連携を図り、「わかりやすく、興味を持てる授業」に関わる研修の運営を行う。	B			
教育情報	教育活動が充実するよう、教育の情報化を推進する。	校務パソコン、S-システム、校内ホームページの活用促進や利便性を高めるための改善を行う。	A	A	A	新生徒ネットワーク環境で利用できる情報機器更新とパソコン室利用の促進を図る。電子黒板の授業等への活用を図る。重要情報等のセキュリティ管理を徹底する。
		新生徒ネットワーク環境の整備を行うとともに、パソコン室利用の促進を図る。	A			
		重要情報等のセキュリティ管理を徹底する。	B			
学校図書館	図書館整備の推進と広報活動の充実により、図書館利用の増進とマナーの向上を図る。図書委員会の活性化により、生徒主体の読書の習慣化を図る。視聴覚機器の円滑な運用と整理整備を増進する。	図書館報「書窓」や「BookNavi」「新刊案内」等の発行を通じ、図書館の広報活動に努める。	A	B	B	年間を通じての朝読書の実施、「書窓」「新刊案内」の発行や合同研修会参加等、スムーズな一年を過ごすことができた。また、電子黒板を導入、書籍購入費を増やしていただくなど、図書館充実に一歩前進した感はある。反面、書架を購入して図書館レイアウト再考やパソコン配置による蔵書検索、アクティブラーニング支援を試みようとしていたが、財政的に叶わず、今後の課題となる。
		朝読書・ブックマイレージキャンペーン、読書週間等の実施により、読書習慣の定着を図る。	A			
		朝読書の本の貸し出し、図書館ビデオ作成等を通じ、図書委員会活動の活性化を図る。	B			
		視聴覚機器の整備・整理を進め、視聴覚教室の有効利用と利用時のマナーを徹底させる。	B			
人権・同和教育	本年度の人権教育全体計画、年間計画に基づき、全ての教科・領域において生徒一人ひとりに人権尊重に関する知識理解と人権感覚の育成をめざし、学力と進路の保障を全職員で推進する。	人権・同和教育推進委員会を定期的に開催し、各学年、各分掌からの情報を共有し、状況に応じて関係分掌や機関との連携をとりながら、生徒指導に活かす。	B	B	B	特設授業では、生徒のアンケートや感想文、教師の事後の評価や反省から生徒の実態を把握し、どこに課題があるのかを分析して今後の授業内容を見直す。また、教職員の研修では、参加者が主体的に取り組みられるように実践報告を基にした協議や参加型の形態を取り入れようとする。
		人権・同和教育特設授業については、人権・同和教育推進委員会において事前に指導内容を検討して、学年でも事前学習を行い授業に臨む。その後、評価や反省点を委員会で総括する。	B			
		職員研修を通して、教職員の人権・同和教育に関する知識や実践的指導力の向上を目指す。	B			
1 学年	すべての生徒が頭と体と心を鍛えようとする積極的な意思を持ち、有意義な学校生活を送れるよう指導、支援に努める。	生徒の学習意欲を積極的に評価し、授業や自宅学習に主体的に取り組む態度を喚起し継続させる	B	A	A	次年度は勉強、部活、資格などに地道に取り組み実力を養う学年だという認識を持たせ、反省と感謝の念を忘れず謙虚に努力を積ませる。スマホの使用について啓蒙し、有意義な高校生活を送らせる。体育祭や修学旅行などの諸行事に主体的に取り組ませ、心身の鍛錬を図るとともに福工生としての誇りを高めさせる。
		学校行事や挨拶、掃除などに積極的に取り組みませ、質実剛健の伝統を継承し、福工生としての自覚と誇りを育む。	A			
		一人ひとりの生徒が楽しく充実した学校生活を送れるよう、職員間の連携を密にして生徒を掌握し、積極的な生徒指導と支援に努める。	A			
2 学年	生徒の主体的活動を促し、互いに切磋琢磨しあい、ともに伸びようとする集団の形成を目指す。また、目標達成のための計画や努力を惜しまず、前進し続ける力を養う。	進路実現のために必要な学力を意識させ、学習意欲を内発的に喚起し、自己学習を促す。	B	A	A	調査前の学習や、授業中の活発な質問に学習意欲を感じられる生徒が増加しており、全体的には向学心が熟しつつある。生徒指導や学校行事などの場面では「行動する理由」を考えさせることを心がけて指導してきた。次年度の進路決定に向けて、引き続き生徒の潜在的な力を伸ばすために、自己肯定感を持たせる指導を行う。
		成功体験や他者との関係から自尊心を持たせ、生徒が主体的に活動できるようサポートする。	A			
		保護者や関係職員の間での情報を積極的に共有し、有機的な生徒指導に生かす。	A			
3 学年	自身の適性に合った進路の選択とその実現に向けて、必要な能力・素養の修得に自ら積極的に取り組むことができる個人の育成と、その集合体としての学年の形成。	最上級生に相応しい言動を心掛け、日々の授業や特別活動に真摯に取り組むことができる生徒を育成する。	B	A	A	進路実現に向けて熱心に取り組む、新たな進路先も含めて1次試験での内定率向上させることができた。公務員試験においても新たな実績を残した。創立120周年関連行事を含め、様々な学校行事も成功させることができた。体育祭以降に遅刻が増えるなど課題も残ったが、卒業式が高校生活の頂点となるように引き締めて取り組む必要がある。
		進路宿泊研修等を通して、十分な準備をもって就職・進学試験等に臨めるように指導・助言する	A			
		課題研究・体育祭等に福工生としての集大成を飾るべく情熱を注ぐことができる生徒を育成する	A			

染織デザイン科	社会人として通用する基本的な生活習慣の確立、基礎的な学力の向上及びキャリア教育の推進を図ると共に授業や資格取得を通して学習方法を取得させる。	ルールやマナーの大切さを理解させ、機敏に行動できるよう指導する。	B	A	A	一部の生徒のルール無視が酷く、指導の徹底が求められている。就職指導も受験前の指導が後手に回った反省点を次年度に活かしていく。資格取得での取り組みでは万全を期し色彩検定2・3級は全員合格できた。次年度も合格率向上を目指す。
		個別指導を中心に、進路意識の高潮を図り、早期に進路内定率100%の実現を目指す。	B			
		授業を工夫し、興味関心を持たせ、2・3年生は、デザイン公募への興味をもたせ応募させる。	A			
		資格試験合格率前年度比5%増、色彩検定全員合格と文部科学大臣賞受賞を目指す。	A			
建築科	建築に関する興味・関心を喚起し、本学科生徒としての自覚と誇りを持って、何事にも積極的に挑戦する人材を育成する。	時間・期限の厳守、服装、言葉遣い、態度等社会人としての基礎基本を徹底指導する。	C	B	B	建築の面白さ、楽しさをこれまで以上に教えることが大切だと思っています。ものづくりコンテスト県大会(木材加工部門)では3位入賞を果たし、高校生対象の福岡県内建築設計競技では9年連続知事賞を受賞した。次年度も更なる飛躍を目指す。
		基礎学力を充実させて、建築への興味関心を高め、適切な進路指導を行う。	B			
		実習室や工作機械を整備し、授業を充実させ、環境整備と安全管理の意識を徹底する。	B			
		ものづくり、建築設計競技において、最優秀賞の獲得を目指す。	A			
機械工学科	工業技術やものづくりに興味・関心を持たせ、進路に対する意識向上を図るとともに、社会人として自立した有為な人材となる生徒を育成する。	社会人として必要な基礎・基本の指導にともない時間厳守、言葉づかい、挨拶、整理整頓等を徹底する。	B	B	B	進路目標の達成に向けて生徒の自覚と自主性を促し、指導体制を整えていきたい。ものづくりに関しては人材育成事業や研修等を通して教員の實力も向上させたい。資格試験への取り組みでは共通理解を図り補習内容の充実および合格率の向上を目指す。
		資格の精選を行いながら取得の目的を明確にし、自己のスキルアップのために積極的に取り組ませる。	A			
		生徒自らが進路を決定していく態度を育成し、インターシップ等を利用して進路に対する意識向上を図る。	A			
		教員の専門性を高めるとともに、授業担当者間で十分な連携を図り、学力を向上させる。	B			
工業進学コース	理工系大学に進学する上で必要な基礎学力の習得と学習習慣の定着を図る。また、ものづくりに必要な基礎的・基本的な技術・技能を習得させる。	進路を考えさせる機会を定期的に設けることで、学習意欲の向上と進路目標の具現化を図る。	A	B	B	高度熟練者による学校での実践的な実習指導では大学教授の出前講義等を実施する。進学補習とともに専門教科の口頭試験に対応した補習の充実を図る。基本的な技術・技能の習得から課題研究でのものづくりに発展させ、技術者としての体験を重視する。
		少人数制授業の特徴を生かし、きめ細かな指導を行い希望進路の実現を図る。	B			
		ものづくりに関する基礎的・基本的な技術・技能の習得や資格の重要性を認識させ、ジュニアマイスターシルバー以上取得を奨励する。	B			
情報工学科	基本的な生活習慣を身につけ、資格取得やものづくりに情熱をもって取り組む生徒を育成する。	自ら身だしなみを整え、人の話を素直に聞くことができるように指導する。	A	A	A	基本情報技術者試験に1人、ITパスポート試験に16人が合格し、一定の成果をあげることができた。次年度は更に出題傾向を分析し、指導の充実に努める。また、学習意欲を高めるため、先端技術に触れる機会をつくる。
		情報技術の進展に対応した実習教材を開発し、ものづくりを通して学習意欲を高める指導をする。	A			
		情報処理技術者試験の指導内容や指導方法を確立し、年間合格者20名以上を目指す。	B			
		創造する力が発揮できるように科目間の連携を図り、授業内容や指導方法を工夫・改善する。	B			
環境化学科	化学者としての技術力やモラルを身につけさせ、さらに多くの資格を取って自分自身の価値を高めさせるように指導する。	提出物の期限を必ず守るように指導する。	A	B	B	レポート提出に関しては厳しく指導したのではば期限通り提出させることができた。危険物取扱者試験の合格率はあまり上がらず、まだ指導に工夫の余地がある。
		実験における安全指導を徹底する。	B			
		危険物などの資格取得に積極的に取り組むよう指導する。	B			
		授業への集中力を高めるように指導する。	B			
電気工学科	生徒が電気技術者として自立心と誇りを持ち、積極的に自己実現に取り組み、生涯に亘り向上心を維持する工業技術教育を実践する。	電気技術者として必要な基礎学力の定着を図り、標準テスト平均75点以上を達成する。	A	A	A	九州地区高等学校工業系生徒研究成果発表大会において秀賞を受賞し、表現力・洞察力やものづくりを通して楽しさを身につけさせることができた。また、レポートの提出期限を守らせるとともに、評価基準を明確にすることにより内容の向上を図ることが出来た。
		生徒の意識を高め、第一種および第二種電気工事士の合格率が9割以上になることを目指す。	B			
		ものづくりや調査研究への意欲を喚起し、生徒研究発表や各種コンテストに参加させ、創造力や表現力を身につけさせて、将来に亘った自立心を養成する。	A			
都市工学科	社会性やコミュニケーション能力を磨き、都市工学科の生徒として自信と誇りを持ち、主体的に活動する生徒を育成する。	時間を厳守し、身だしなみを整え、学ぶ環境を整備するなど、基本的な生活習慣を確立させる。	A	A	A	本年度は、12月末までに進路希望が100%実現した。体育祭の4連覇を達成し、都市工学科の結束力の強さを示すことができた。次年度は測量士補や2級土木施工管理技術の国家資格の合格増を目指し指導体制を強化していきたい。
		聞く力・考える力を育成し、家庭学習の習慣を醸成し、学習意欲と基礎学力の向上を図る。	B			
		あらゆる機会を利用して進路意識を高揚させ、進路希望早期決定と100%実現を目指す。	B			
		ものづくり大会および資格取得において好成績を収めることが出来るよう指導の徹底を図る。	A			
電子工学科	基本的な生活習慣を身につけさせ、電子技術者としての意識や知識・技術を高める共に、自立心と思いやりの心を持った生徒を育成する。	創造性を育む知財教育を行い、パテントコンテストに1年生80%以上の応募を目指す。	A	A	A	パテントコンテストは1年生全員が応募することができ、うち1名が特許出願の権利を受賞する事が出来た。各資格取得に向けても順当に取り組むことが出来ており次年度も継続させたい。
		技術者としてのものづくり技術力向上のため、全員が1つ以上の回路を製作する。	A			
		基礎学力の定着・向上、学ぶ意欲の向上を図り、特殊無線技士の全員合格、工事担任者30名以上の合格を目指すと共に標準テスト平均75点以上を目指す。	B			